

第13回とやま未来創造県民会議における主な委員意見
(令和5年10月18日(水)開催)

<結婚・出産、子育て関係>

- ・ 少子化については、富山県だけの問題でなく日本全体の問題。
- ・ 女性が結婚しやすいような指標をKPIに使用すべき。平均初婚年齢、未婚率は二次的な課題であって、一次課題にするのは上から目線のように感じられる。
- ・ 今の時代、結婚は当たり前ではない。男性も女性も、仕事をしっかりして楽しく生活していくという考えが基本にあるのではないか。
- ・ 日本や韓国では結婚しないと子どもができないという考えが強いが、欧米では結婚は絶対条件ではなく、結婚と子どもに関する考え方に大きな違いがある。
- ・ 男性の育児休業について、例えば1か月取得してもまだまだ子育てにはフォローの時間が必要。男性の育児休暇だけでなく、男性の時差出勤や短時間勤務に関するKPIを取り入れるとよいと思う。
- ・ 他県では自分の地域で子どもを育てている家庭にインターンシップをしに行くという事業がある。実際に子どもを育てることを想像するのが難しいと思うので、そういった考えが大切。
- ・ 保育園コンシェルジュのようなものが無い。現在、移住者などいろいろな人から相談を受けている。気軽に保育園や学童保育のことを相談できる場がない。
- ・ 子育てしている立場から考えると、子育てにお金がかかるというのは非常に感じる。1人当たりの県民所得がほぼ成長していない。今はインフレの時代であり所得が減少しているのと同じ状態であるので、企業サイドで何かしら賃金を上げる取組みが必要と考える。
- ・ 収入が増えない中で子どもを育てるのは難しく、支出がかなり多くなっていると感じる。制服などその時期にしか使わないものにお金を使っていくと本当に必要なところにお金が使えなくなってしまい、このような不安要素があると次の子育てへ向けた一歩が踏み出しづらくなってしまうと思う。
- ・ 富山県では結婚して出産するという順番に沿った目標設定が長らく続いていたと思うが、様々な婚姻、パートナーシップの作り方が広がってきており、そうした枠組みにとらわれず誰でも子どもを生みやすい社会づくりが必要だと思っている。人口の自然増というのは必要だが、どのような立場の人でも暮らしやすい地域を作ることで人が集まってくることにつながっていくと思う。

<産業振興関係>

- ・ 1人当たりの県民所得が全国5～7位とあるが、国内だけでなく世界にも目を向け視野を広げる必要がある。
- ・ 富山県の農業はお米だけで複数の軸が必要であると思う。農家の賃金を上げないと若い方のなり手が少なくなってしまうと思う。
- ・ 今年は、肥料、燃料、電気代が高騰して経営が難しい状況であり、小規模の農家で助け

合ってなんとか放置田を作らないようにしている。

<若者等の雇用創出>

- ・ 20代女性の社会流出については、富山県だけでなく他県も重大な課題としている。流出の増加は社会現象であり、今行っている取組みの効果がないわけではないと思う。何もしなかったらどんどん落ちていくところ、この段階で踏みとどまっている。今後もしできる努力は引き続き行っていき、一つずつ効果を検証し、効果があるものは伸ばしていくことが大切。
- ・ 若い女性の流出が多い点について、東京が若い人にとって魅力的であるのは、若い人が主役になれる場所であるからだと思う。資料では審議会における女性委員の割合というKPIが達成可能となっているが、富山県の県議会議員、市町村議会議員のような場や地域の自治振興会の場においても、若い女性の参加は圧倒的に少なく高齢の男性が決定権を持っており、若い人が主役ではないと感じてしまう。もう少し細分化して女性や若者の参加の割合を見ていく必要があると感じる。
- ・ 最近では、起業の相談に来られる方は女性が非常に多く、活動的で自己実現に向けて頑張っている。富山でウェルビーイングという話があるが、世界で最も自己実現がしやすいまちという評判を作っていくことができれば、女性が自己実現するために富山へ来るといった状況を作れるのではないかな。
- ・ 富山県内の高校生が富山県内の大学に進学する割合は21%で、全国で7番目に低くなっている。富山県出身で富山県内の大学の学生の地元就職率はだいたい80%。県外出身で富山県内の大学の学生が、富山県の企業への就職率は20%。県内の高校生の県内大学への進学率が高くなれば、県外への流出を抑えられるのではないかな。
- ・ 県内の大学ではデータサイエンスなど、東京の私立大学に行くよりも高度な教育を提供しているが、県外へ出ようという人が多いと思う。もう少し地元の魅力を感じてほしいと思う。
- ・ 富山県の企業は、富山県生まれの富山県内の大学生を取り合っている。産官学が連携して人材採用、つなぎ止めが必要である。
- ・ 子育てしやすい環境を作っていくためには女性のリカレント教育に力を入れていく必要がある。リカレント教育に力を入れることでDX人材が育つ環境が整備されていくと思う。
- ・ 女性が稼ぐ技術を身につければ、創業マインドが高まっている方が多いので、女性がどんどん起業していけばまちはもっと元気になっていくのではないかな。

<多様な人材の確保及び労働生産性の向上関係>

- ・ 富山県は女性が県外へ出て戻ってくる割合が低く、県では女性がUターンで戻ってきてもらえるような事業を行っている。参加する人の多くは女性が働いているイメージの強い業務を希望されている方が多く、そもそも女子を集めようと、「女性就活」、「女性戻ってきて就活」というタイトルを変えないと難しいのではないかな。
- ・ 子育てについては、企業側の努力も必要。単に育休制度を作るだけでなく、時間制約

がある社員を正当に評価し、働きがいや意欲を持ってもらえるようにする必要がある。時間に制約がある人を前提とした制度を作っていくこと、男性社員の長時間勤務を前提とした考え方を変えていくことが必要である。

- ・人口減少は自明の理なので、定年を延長して高齢者が働きやすい環境にすることも大切。
- ・多様な働き方ができるように企業側が努力していく必要がある。正社員でフルタイムが前提ではなく、多様な働き方ができる人、障害者の方なども含め、ダイバーシティ&インクルージョンというものを中小企業も実装することが重要。
- ・外国人留学生や実習生は、円安と賃金の上昇のため、都市部には集まるが富山にまで働きに来ない状況になっており、富山の企業は苦勞している。ただ給料を都市部と同様にしても都市部のほうへ流れてしまうので、外国人労働者で労働人口を補うというのも難しくなっている。女性、高齢者の方に多様な働き方で活躍してもらうことが重要。

<交通ネットワーク関係>

- ・交通では、新たなモビリティを積極的に社会実装していくこと、富山市ではコンパクトシティ政策から今後スマートシティ政策を進めていくこととしているが、そのような取組みを県全体に広めていき、地域の移動課題を様々な DX、IT ツールを活用し、環境問題の視点も含めて推進していく必要がある。

<その他全般>

- ・情報発信が足りていないと感じる。富山県のアプリなどで一括して県の情報を発信できるようにしてほしい。
- ・SDGs に取り組んでいる企業が選ばれるように、学校の給食などで食材にこだわってくれる県は子どもを大事に考えてくれている県なのだと感じる。「オーガニック給食」を富山県でもぜひ進めていってほしい。